

SWCCグループ

2021年3月期 第3四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

February 3, 2021

<https://www.swcc.co.jp>

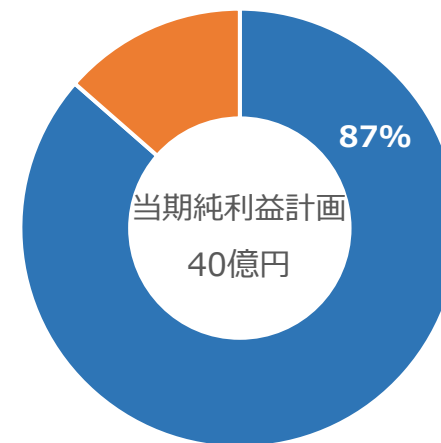
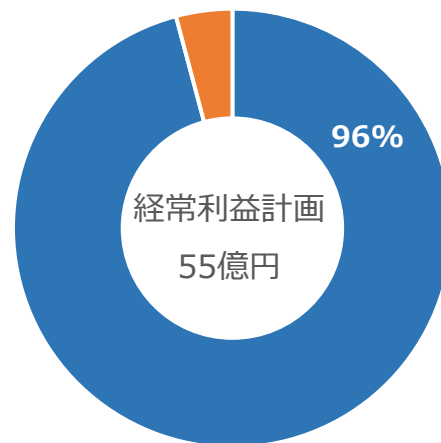
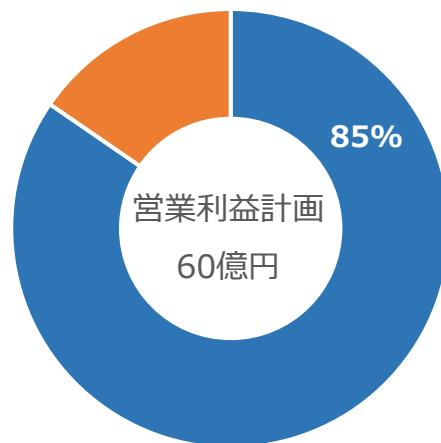
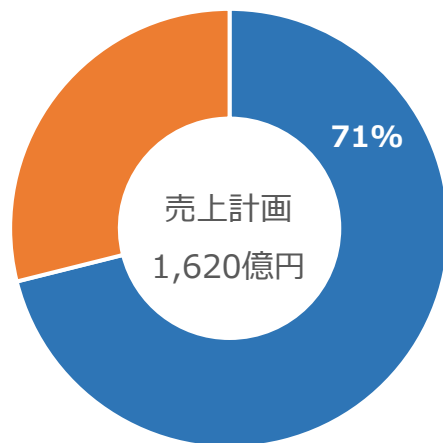


2021/3期 第3四半期決算総括

業績：3Qは2Qからの回復基調が継続

- ・ **エネルギー・インフラ事業**：電力インフラ向け需要は当初の想定どおりに推移。建設関連向け需要は2Q以降回復基調が継続するも、前年同期の需要には至らず。
- ・ **通信・産業用デバイス事業**：通信インフラ向けは5G需要等により徐々に持ち直した。産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- ・ **電装・コンポーネンツ事業**：重電向け汎用巻線の需要低迷が継続したことから減収となったが、利益面では自動車向け高機能製品の需要が回復し、増益となった。

3Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益） ※対期初計画



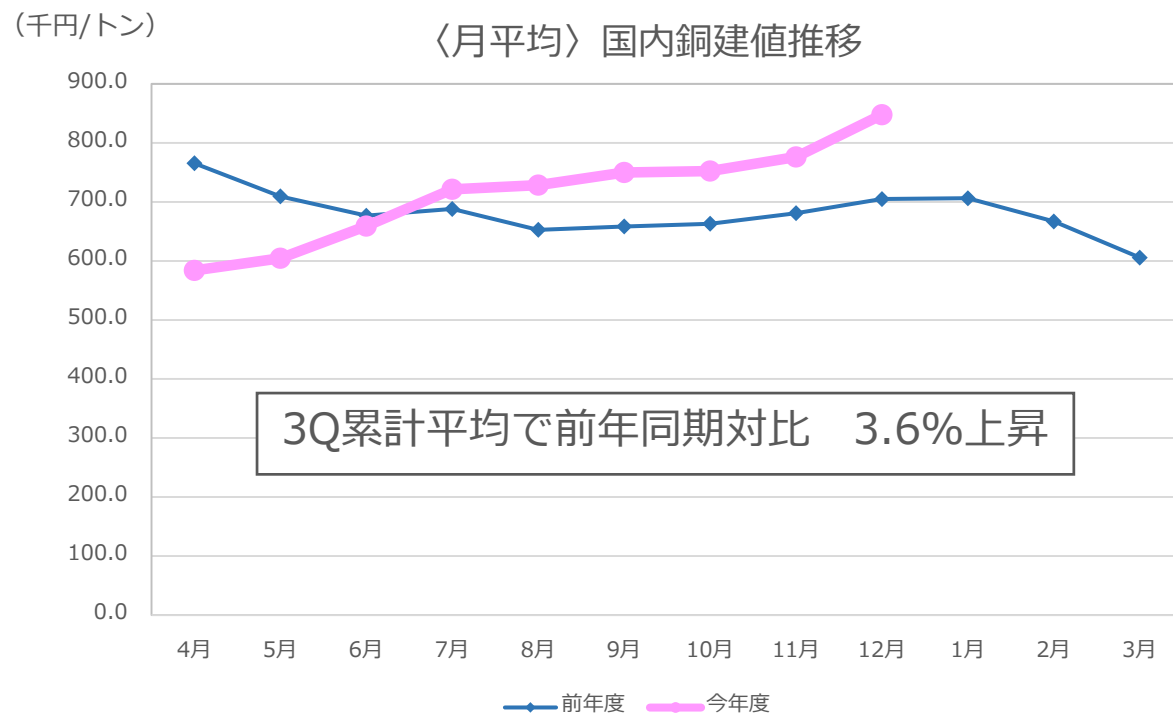
2021/3期 通期業績予想と配当予想修正

- 新型コロナウイルスの影響が想定より限定的であったため、2月3日に連結業績予想と配当予想を修正。
- 最終利益については通信ケーブル事業等の国内拠点再編の構造改革による特別損失を見込んだ。

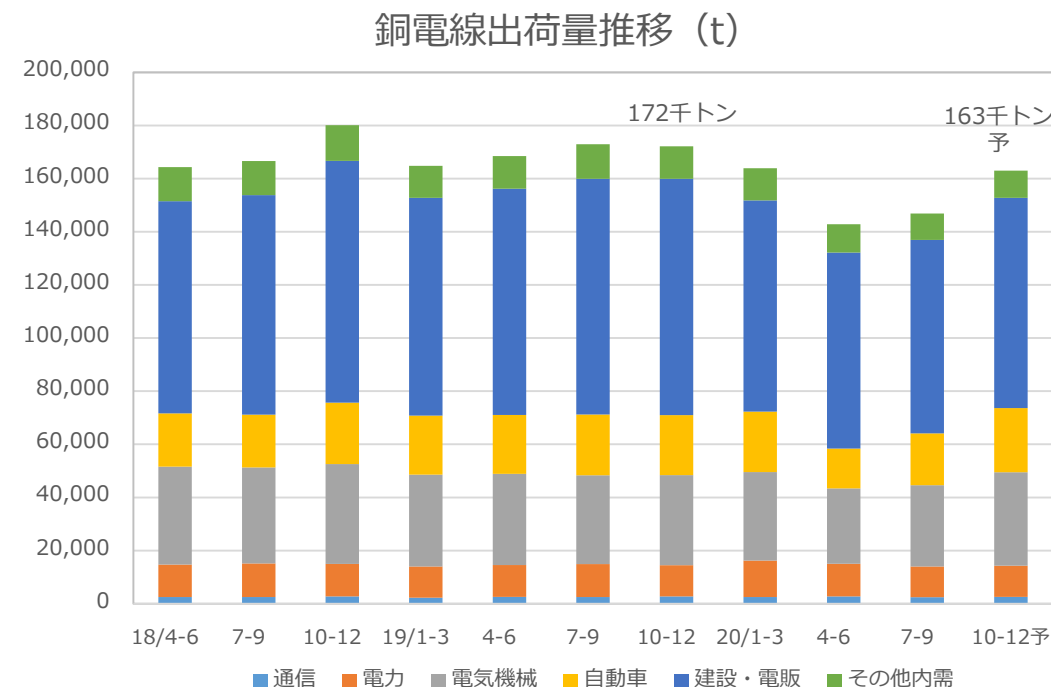
(単位：億円)	2019年度 実績	構成 %	2020年度 5/15計画	構成 %	2020年度 修正計画	構成 %	修正額	修正幅 %
売上高	1,711	-	1,620	-	1,620	-	-	-
営業利益	86	5.0%	60	3.7%	70	4.3%	+10	+16.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%	70	4.3%	+15	+27.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%	42	2.6%	+2	+5.0%
配当金/配当性向	15円	8.2%	15円	11.2%	20円	14.2%	+5円	-

マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり、3Q累計期間平均では3.6%の上昇。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。（前年同期比△11.9%）



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

3Q 連結損益計算書

- 売上高は前年同期比△11.0%、営業利益は△25.1%。下期の回復基調は継続。
- 事業ポートフォリオの変換等の構造改革により3Q累計では2018年度を超える利益レベルを確保。

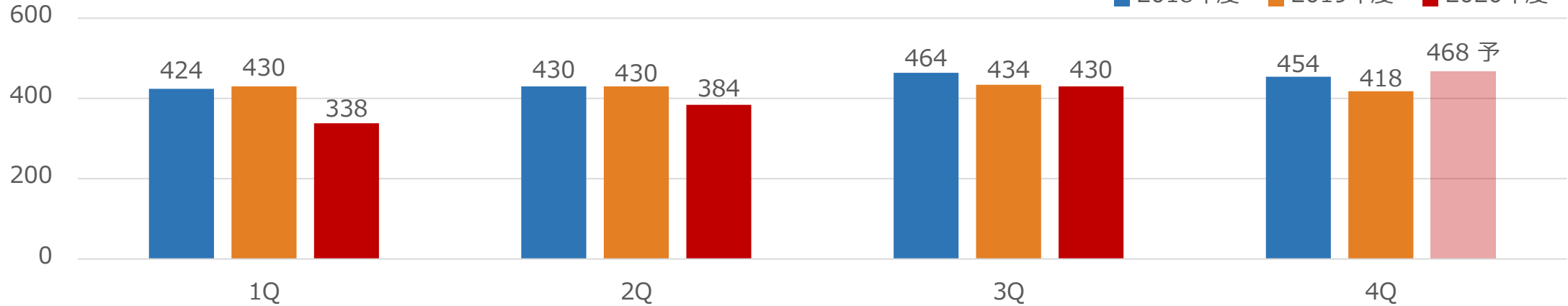
(単位：億円)	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	1,318	1,293	1,152	-	△11.0%
売上総利益	158	179	155	13.4%	△13.8%
営業利益	45	68	51	4.4%	△25.1%
経常利益	39	63	53	4.6%	△16.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	28	46	35	3.0%	△24.2%

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

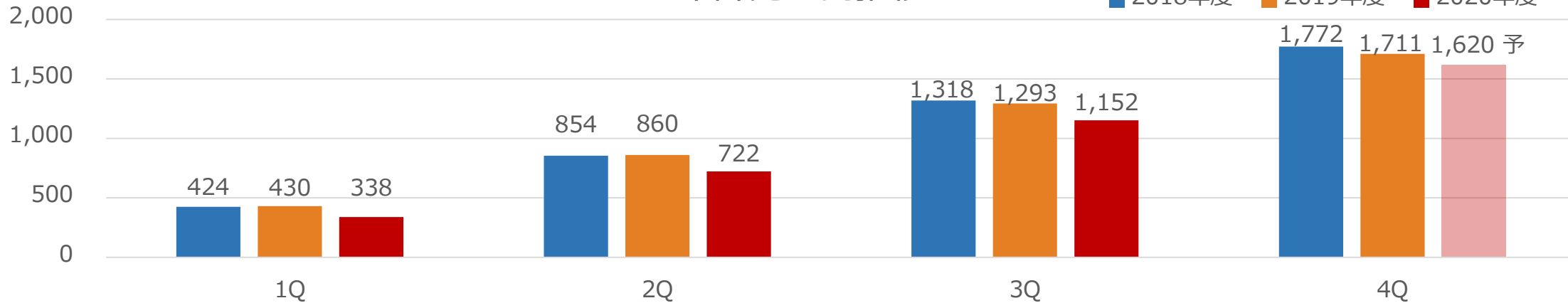
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

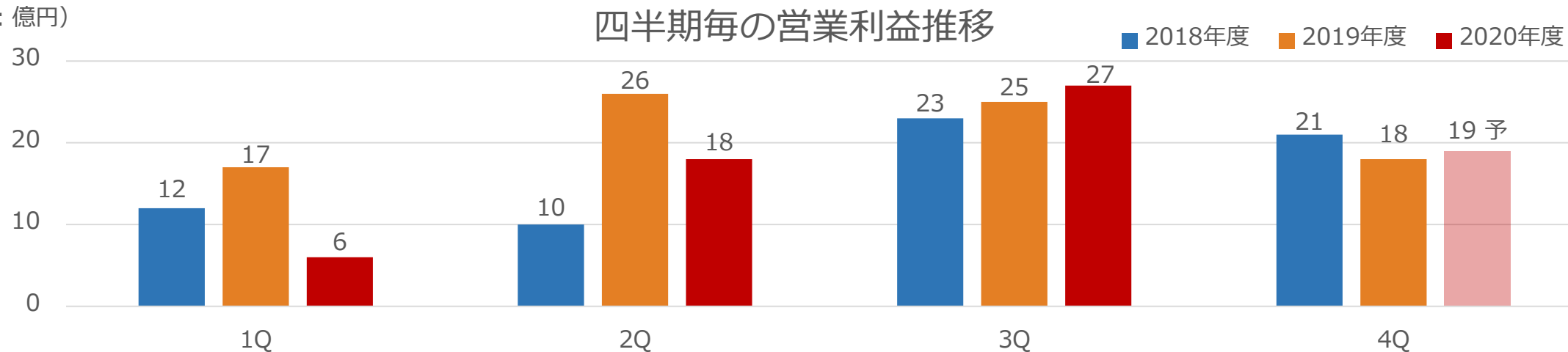
累計売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度

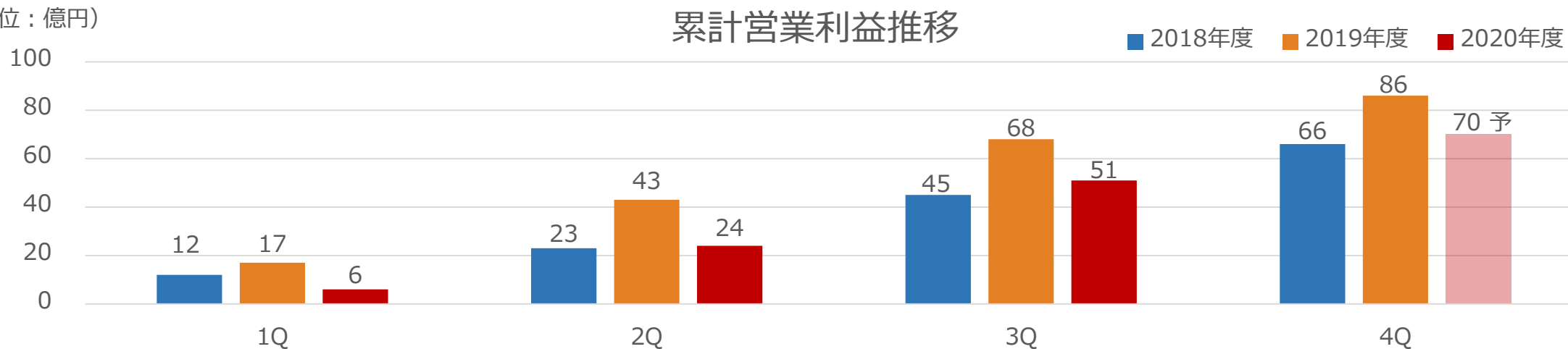


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)



(単位：億円)



セグメント情報

- ・ コロナ禍の影響を受け、1Qで大幅な減収・減益、2Qから回復基調となり3Qも継続。

(単位：億円)

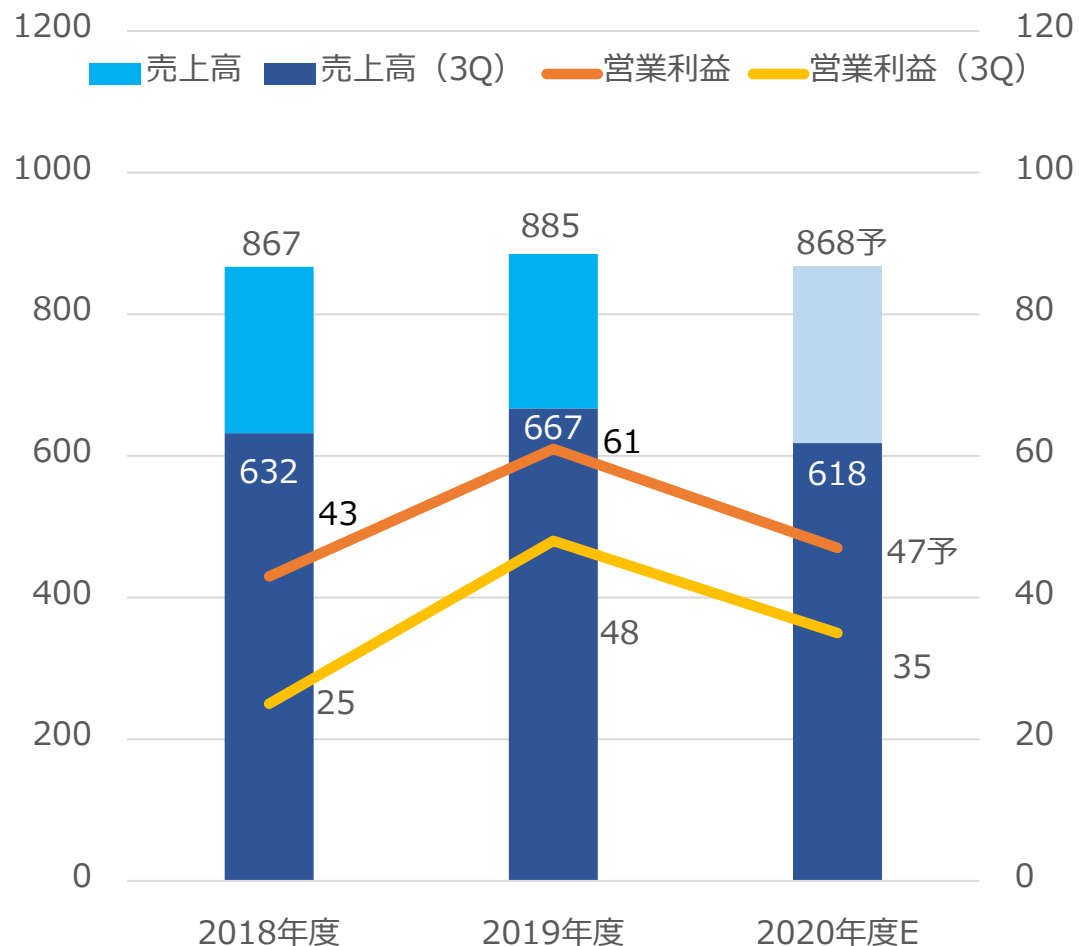
	2018年度 3Q 実績		2019年度 3Q 実績		2020年度 3Q 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー ・インフラ	632	25 (4.0%)	667	48 (7.2%)	618	35 (5.7%)
通信・産業用 デバイス	249	17 (6.7%)	229	20 (8.6%)	197	15 (7.7%)
電装・ コンポーネンツ	399	6 (1.6%)	362	3 (0.9%)	304	5 (1.6%)
その他 (内新規事業)	37 (22)	△3 (△2)	36 (22)	△4 (△1)	33 (23)	△4 (△0)
合 計	1,318	45 (3.4%)	1,293	68 (5.2%)	1,152	51 (4.4%)

エネルギー・インフラ事業

実績&業績計画



(単位：億円)



第3四半期実績

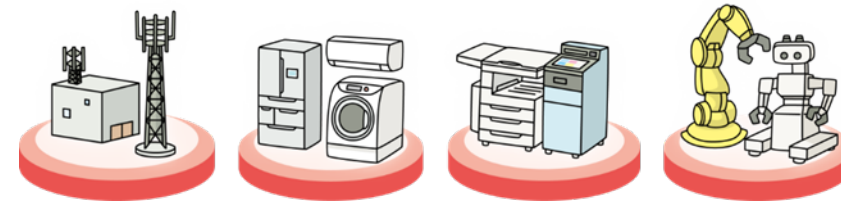
<p>◆建設 汎用電線、 免震装置、制振・防振</p>	2Q以降、建設工事案件の需要が回復基調も前年同期に至らず。
<p>◆電力インフラ 電力ケーブル、工事、 電力機器部品(SICONEX®)</p>	期初に想定したとおりに推移。

通期見通し

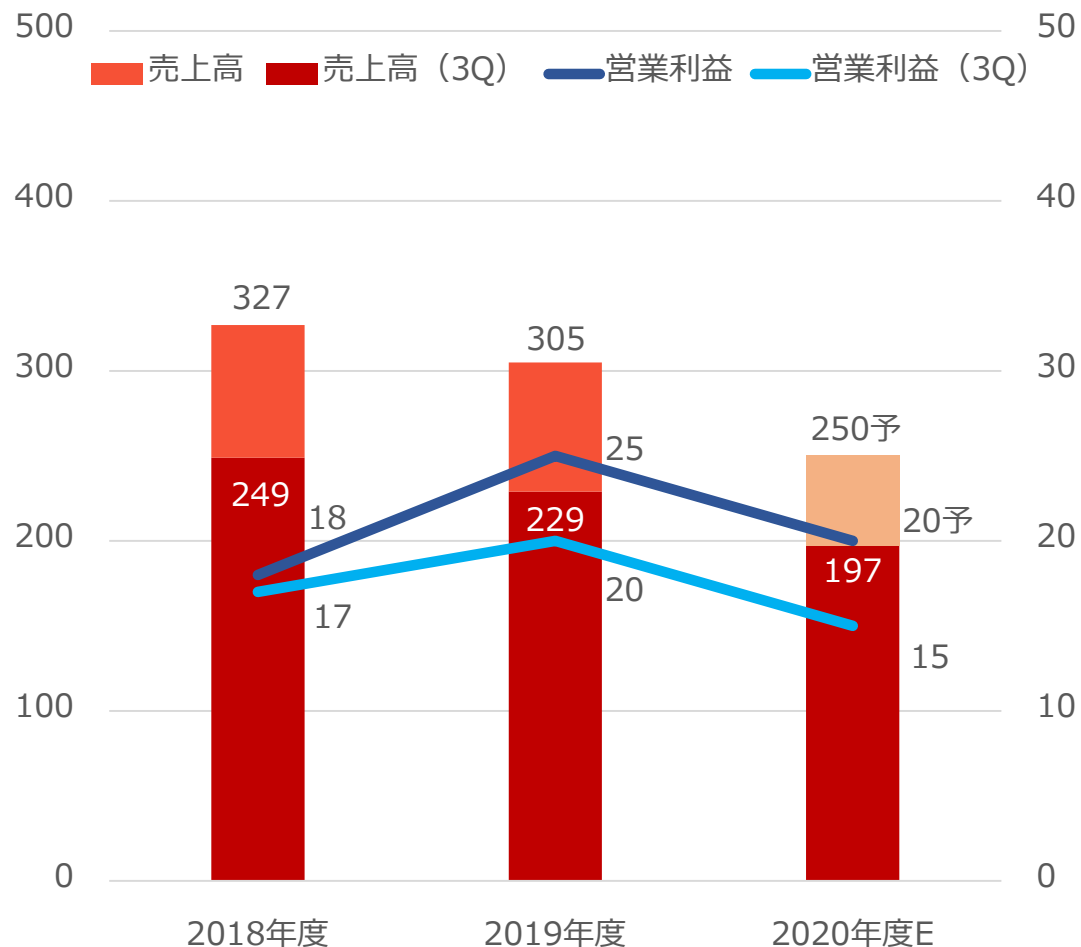
電力インフラ需要は想定どおりに推移。建設工事案件の需要は回復するも、前年同期の需要水準には至らず。

売上高は868億円、営業利益は47億円を計画。

営業利益率：5.4%（前年度6.9%）



(単位：億円)



第3四半期実績

◆建設 メタルケーブル、光ケーブル	5Gサービス向け等の通信インフラ増強に伴う需要があったものの、前年同期比では需要が低迷。
◆通信インフラ LANケーブル、光ケーブル	
◆家電・産業機器 ワイヤハーネス	サプライチェーンの混乱は収束し、中国を中心に需要が回復したものの、前年同期比では需要が低迷。
◆複写機 精密デバイス	

通期見通し

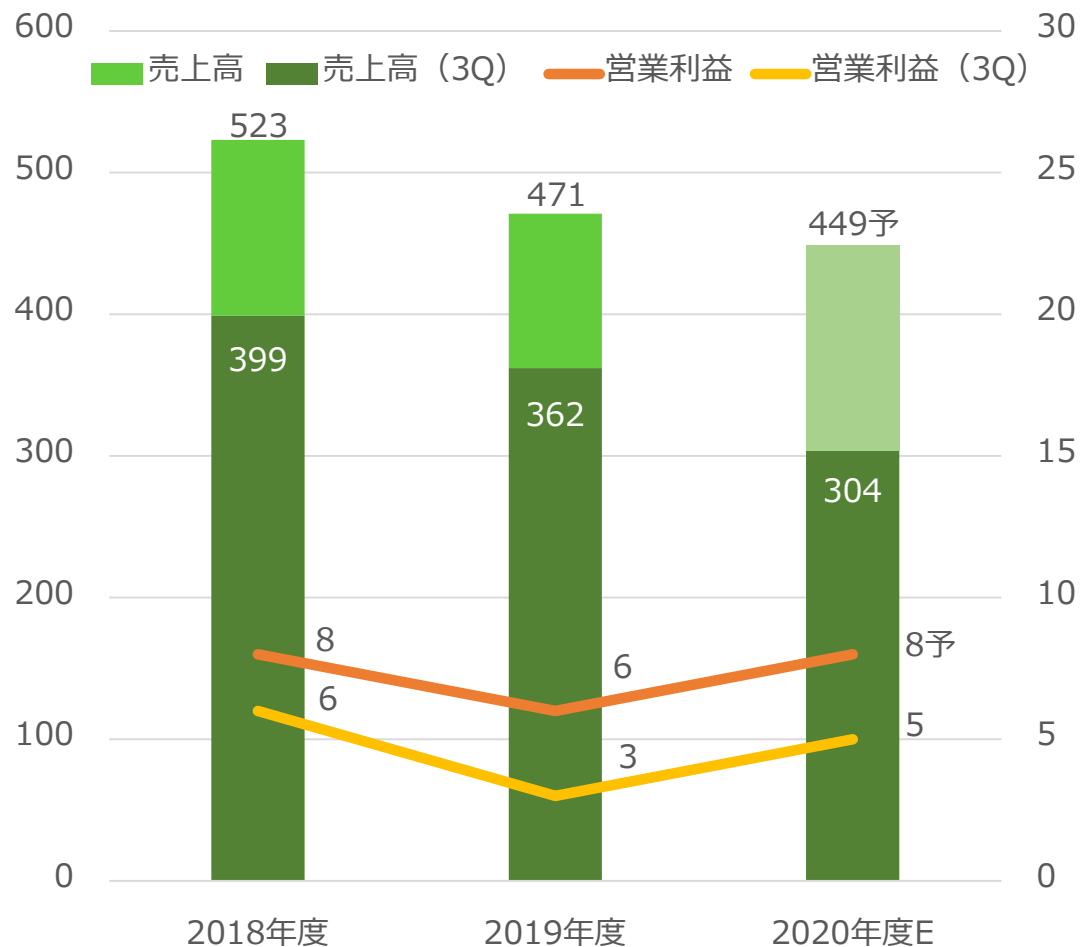
国内通信インフラ増強、GIGAスクール等の需要を取り込む。精密デバイスはコロナ禍によるサプライチェーンの変化に対応した構造改革を推進中。

売上高250億円、営業利益20億円を計画。

営業利益率：7.9%（前年度8.2%）



(単位：億円)



第3四半期実績

◆自動車 無酸素銅MiDIP®、 銅合金、高機能巻線	自動車向け高機能製品の需要は 下期から回復。
◆電気機械 他 汎用巻線	重電向け等の汎用巻線の 需要低迷が継続。

通期見通し

汎用品から高付加価値品主体の事業へ変革を推進中。
下期以降の自動車市場回復と、無酸素銅MiDIP®、
銅合金、車載用巻線の増産により収益性の改善。

売上高は449億円、営業利益8億円を計画。

営業利益率：1.7%（前年度1.2%）

貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は34.8%（前期末比2.5ポイントアップ）

（単位：億円）

	20/3/31	20/12/31	増減
現金・預金	43	47	+4
受取手形・売掛金	412	407	△5
棚卸資産	217	221	+4
その他	45	51	+6
流動資産 計	717	726	+8
有形固定資産	399	400	+1
無形固定資産	14	12	△2
投資その他の資産	94	99	+5
固定資産 計	508	512	+4
資産 合計	1,225	1,238	+12

	20/3/31	20/12/31	増減
支払手形・買掛金	186	198	+12
短期借入金・社債	295	272	△24
その他	157	129	△28
流動負債 計	638	599	△40
長期借入金・社債	119	133	+14
その他	68	70	+2
固定負債 計	187	203	+16
負債 合計	825	801	△24
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	0
利益剰余金	62	92	+30
その他	38	45	+6
純資産 合計	400	436	+36
負債・純資産 合計	1,225	1,238	+12

新型コロナウイルス対応

2020年5月25日制定

国内では地域ごとに5段階での危機管理レベルを設定 「職場における新たな業務習慣ガイドライン」を制定

- 5段階の危機管理レベル対応の明示
- グループ全社連絡網の活用（緊急連絡アプリで対応）
- 全従業員がアクセスできるWeb会議システム導入
- 感染者の差別禁止、個人情報保護
- 本ガイドラインに関する教育の実施 等

対策を強化

2021年1月の緊急事態宣言を受けて

- 緊急事態宣言対象地域の**出社率50%から30%**への低減を目指す
(事業所、工場、物流センター、工事関連事業を除く)
- 新しい生活習慣に基づき感染防止対策を徹底
- 不要不急の**外出は極力自粛**し、WEB会議システムの活用を推奨
- 従業員の**体温管理の徹底**
- 外来者の方への**検温のお願い**
- 社内外問わず、**会食は禁止** 等

市場環境 今後の見通し

- 下期の回復基調は継続。感染症の再拡大により予断を許さない状況。

	市場環境		施策対応
エネルギー ・インフラ	建設		<ul style="list-style-type: none"> • 需要変動への生産体制対応 • 再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化 • 制振制音事業の構造改革推進
	電力インフラ		
	免震・その他		
通信・産業用 デバイス	通信ケーブル		<ul style="list-style-type: none"> • 5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉 • 新たなサプライチェーンと地産地消(中国、東南アジア)への構造改革 • ワイヤハーネスの新体制始動と海外投資の強化
	ワイヤハーネス		
	精密デバイス(複写機用)		
電装・ コンポーネンツ	高機能製品(自動車等)		<ul style="list-style-type: none"> • 自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を增強
	一般汎用製品		
その他 (内新規事業)	IoTソリューション		<ul style="list-style-type: none"> • テレワーク対応システム商材増強 • 遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化
	インダストリ(医療等)		



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。